

令和4年度招魂祭

7月1日、町内大通りににおいて、招魂祭音楽行進が行われました。

その後、町民センター大集会室において、令和4年度剣淵町招魂祭式典が行われました。

この招魂祭は、毎年剣淵町と招魂祭奉賛会が行っており、会場に用意された祭壇前で、戦没者に追悼の意を込め献花と参拝をします。

昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症予防のため遺族及び関係者のみで実施されました。

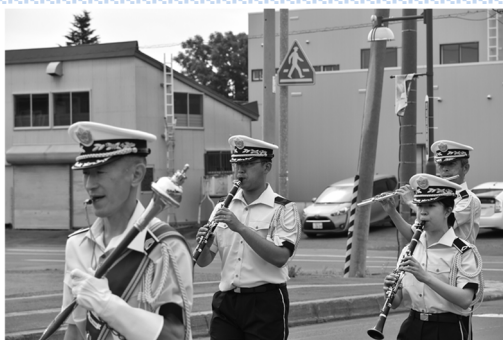
式典前の音楽行進では、小学校5・6年生の児童によるよさこいソーランの演舞や中学校の吹奏楽部と陸上自衛隊第2音楽隊が演奏しながら行進し、演舞や演奏を通じて先人の方々への感謝の気持ちを表しました。



▲町民センターに設置された戦没者祭壇

式典では、早坂町長が「再び戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、恒久平和の実現に不断の努力を続けて参りますことを固くお誓い申し上げます。2月突如のロシアの軍事侵攻により、ウクライナの民間人を含む多くの痛ましい犠牲者を出し、今や世界経済を巻き込む事態へと拡大しています。世界有数の穀倉地帯であるウクライナの地がおりただしい数の銃弾で破壊されている映像に、国益のために人の命を奪い、子どもたちの未来を奪う戦争の不条理を目の当たりにし、なお一層一日も早い終結を願うものであります。」と祭詞を述べ、北海道連合遺族会の伊東良孝理事長は「今、わが国は戦後世代が国民の大多数となり、時の流れとともに、かつてない転換期を迎えておりますが、私たち戦没者遺族は世代の立場を超えて、国に殉じられた方々の慰霊の追悼顕彰を継続し、また、平和とわが国の伝統、文化、良俗を守り続ける決意であります。」と追悼の言葉を述べられていました。

～招魂祭での音楽行進のようす～



♪素敵な音色が街と心に響きわたりました♪